

新型コロナウイルスの収束はまだまだ見通しがつかず第7波の到来も予想されていますが、今年度は少しずつ活動の幅を広げていきたいと考えています。

『環境が人を育てる』とよく言われますが、障がい者支援に携わる者は実感としてあると思います。そう考えると、このコロナ禍でも多くの発見があったはずなので、2年間で振り返り整理することで今できること、やるべきことが見えてくるのではないかと考えています。

時間が止まったように感じられた期間は過ぎ、新しい生活をまた積み上げていく時がきました。まだまだ規制はありますが、日々の生活の中でのちょっとした喜びや、近い将来の夢を語り合える機会が増えることを願っています。

今年度は職員構成が変わり、チームの新たな強みを見出せるのではないかと期待しています。迷い悩みながらも歩みを止めない、そんな一年になるよう頑張ります。

福島育成園 入所 管理者 松本 源太郎



この度、福島育成園入所支援管理者を拝命いただきました。

昨年度においてもコロナ禍の中の運営で、特別な配慮のいる一年となりました。

日本には四季があり、それになぞらえて福島育成園をなぞらえると「冬」のような季節を過ごしているのだと思います。

実際に昨年度後半に至っては実際に利用者や職員、関係者からコロナ感染症罹患者が出ており、入所通所とグループホーム（グラス）という福島育成園エリアを巻き込む緊急体制を敷く事態になり、新年度もまだ感染症の影響は残り、今まで経験することのなかった事態となっています。

そういう意味でも、力を蓄える時期、じっと我慢をする時期ではないかと思えてなりません。春を迎えるためには（春が来てほしいと願うばかりですが…）、新しい芽を生むために種まきをしなければなりません。その種まきとは、次に向けた準備だととらえます。

コロナ禍はまだ続いています。そんな中でも少しでも前に、いつかそれが過ぎ去ったときにもっと福島育成園がより良いものとなるように前進しています。

昨年度にはスタッフ間でもたくさんのことを話し合いました。今後のことではスタッフ一人一人の思い

はとても前向きなもので、少し進んだものもあります。ただ、少しずつ形にはなりつつあるものの、現実的には叶わなかったものなども多いと感じています。変えなければいけないこと、守らなければいけないものをしっかりと見つめて、方向性をつけていかなければいけません。

また、個人的にはスタッフ一人ひとりの力を引き出し、お互いに高めあえるような気持ちとなってもらうためにも一人ひとりに寄り添っていける長でありたいと思っています。

春は訪れ始めている。しっかりと芽が出て、育っていくためにはしっかりと準備も必要ならば、今はそれを私もスタッフも意識していくことはすごく大事なことでないかと改めて考えさせられています。

福島育成園 通所 管理者 林 祥子



【今日が最高の一日になるように】

今年度、福島育成園の通所部管理者を拝命いたしました林 祥子と申します。

いまだ収まる兆しのないコロナ禍…不安定な世界情勢…

それでも桜は満開に咲き誇りました。本来であれば、そんな街の春を愛でながら新天地への道を歩みたかったのですが…幕開けから様々な出来事が重なり、それも叶わないまま葉桜を迎えてしまいました。福島育成園が担う役割の深さに直面した船出です。

さて、9年ぶりの福島育成園…前は相談支援事業を担っておりましたので、直接、利用者の皆さんと一緒にする機会は少なかったのですが、それでも私の顔を覚えていてくださった方が多く、とても心温まりました。これから利用者の皆さんお一人お一人のご様子をしっかりと把握できるよう努めてまいります。

まだまだ日々の緊張感は拭えませんが、新しい生活様式のもとでも利用者の皆さん、ご家族の皆さん、そしてスタッフにも笑顔が溢れるよう、知恵を絞り工夫を凝らしていきたいと思っています。

今回、私にはもう一つの役割として、グループホームと基幹相談支援センターのサポートがあります。地域生活では、当たり前前の方が当たり前前です。季節のものを食べ、元気に活動し、温かく迎え入れる仲間がいる環境が心身ともに健康的な暮らしに繋がるのではないかと感じています。それぞ